

# 緊急消防援助隊情報

## 緊急消防援助隊PR動画を公開しました

広域応援室

緊急消防援助隊は、日本のどこかで大規模又は特殊な災害が発生した際に、全国の消防機関等から被災地に向け集中的に出動し活動する消防部隊（消防隊・救急隊・救助隊など）です。

この緊急消防援助隊が創設以来25年という節目を迎えたこと、そして、より国民に身近に感じてもらうことを目的として、総務省消防庁はPR動画を作成し（ナレーションはタレントの照英氏に依頼）、令和3年5月20日にホームページに公開しました。

発足のきっかけは平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災です。この直下型地震はマグニチュード7.3、最大震度7を観測し、当時、戦後最大の死者6千人以上、負傷者4万3千人以上の人的被害を及ぼしました。

発災時は、広範囲にわたる火災、建物の倒壊による要救助者の救出、負傷者の搬送など、消防機関が出動すべき災害が同時多発的に発生し、通常の消防体制では即座に対応しきれないことから、被害のない地域から多数の消防機関が応援のために出動しました。

しかしながら、それまで経験したことの無い大規模な災害で、普段統率の取れている消防機関でさえ、災害の全貌を把握することができず、的確な部隊配置や効果的な活動することは困難を極めました。

その教訓を踏まえ、より多くの人命と財産を災害から守り、効果的かつ迅速に消防活動を行うために創設された組織が緊急消防援助隊です。

創設以来、幾度となく緊急消防援助隊は全国の災害に出動し、平成23年の東日本大震災や平成28年熊本地震、近年では毎年のように発生する豪雨災害なども含め、令和3年3月31日までに合計42回の出動がありました。

PR動画では、過酷で壮絶な災害現場の中で活動する緊急消防援助隊員は、その中で何を感じ、普段どのような思いで職務に従事しているのか、また緊急消防援助隊はどんな組織でどのような装備を保有しているのかなどについて、詳しく紹介しています。

各都道府県及び消防本部におかれましては、このPR動画を防災訓練や講話会場、庁舎や街角のモニターなど、あらゆる場所で放映できるよう御検討いただき、住民ひとりひとりが防災意識を高め、災害による被害を少しでも軽減できるよう、また、より多くの方に、災害に立ち向かう隊員の思いや姿勢、誇りを伝え、消防組織全体のPRとなるよう御協力をお願いします。

表1 緊急消防援助隊PR動画（完全版）概要

No.	キャプチャ	収録内容
1		緊急消防援助隊創設契機となった阪神・淡路大震災の災害映像と、当時災害対応した消防職員へのインタビュー(40秒頃～)
2		これまでに活動した災害映像と、東日本大震災で活動した消防職員へのインタビュー、緊急消防援助隊の変遷(2分35秒頃～)
3		緊急消防援助隊が出動するまでの流れ、各種部隊の説明(7分50秒頃～)
4		特殊車両等の紹介(12分22秒頃～)
5		緊急消防援助隊として活動する消防職員の思い(16分13秒頃～)

表2 緊急消防援助隊の主な活動実績  
(計42回の出動災害のうち、一部抜粋) 令和3年3月31日現在

年	災害名	出動隊数	出動人員数
平成8年	蒲原沢土石流災害	72隊	382人
平成12年	有珠山噴火災害	14隊	65人
平成15年	平成15年十勝沖地震、出光興産北海道製油所ナフサ貯蔵タンク火災	381隊	1,417人
平成16年	平成16年新潟県中越地震	480隊	2,121人
平成17年	平成17年JR西日本福知山線列車事故	74隊	270人
平成20年	平成20年岩手・宮城内陸地震	211隊	1,025人
平成23年	東日本大震災	8,854隊	30,684人
平成26年	平成26年8月豪雨による広島市土砂災害	399隊	1,296人
	御嶽山噴火災害	547隊	2,171人
平成28年	平成28年熊本地震	1,644隊	5,497人
	平成28年台風第10号による災害	257隊	1,044人
平成29年	平成29年7月九州北部豪雨	1,179隊	4,203人
平成30年	平成30年7月豪雨	1,383隊	5,385人
	平成30年北海道胆振東部地震	197隊	827人
令和2年	令和2年7月豪雨	532隊	1,999人
令和3年	栃木県足利市林野火災	24隊	145人

(備考) 出動隊数及び人員数は、消防庁の集計による。



QRコード  
消防庁ホームページ  
(PR動画掲載ページ)